



“文字”のサイン



全景



幾何学文の花入



登り窯



“紀元”のサイン



あや窯スタッフ



中里 文子
Fumiko Nakazato
中里 紀元
Norimoto Nakazato

文子氏
1934年生まれ
紀元氏
1932年生まれ

- 駐車場 (4台)
- 作業風景見学
- 体験教室
- 要連絡

窯印・作家印▶

あや窯

ふ

の



唐津市柏崎 473
TEL.0955-77-1471

古唐津は野育ちなれど格高し。
女流作家として初めて唐津焼の窯を開いた文子さん。「古唐津は野育ちなれど格高し」こたわりは「品格」。売れば良いというものではない。唐津焼は土くさいけど品があり、格が高いのに良さがあると文子さんは話す。唐津焼は、主人公を引き立てる脇役だ。花入れは花、食器は料理が主役。その両方が生きていることを常に意識しながら、1つずつ文子さんは創作を続ける。唐津焼には土の性格、火の性格があり、人間の力だけでは表現できない、人間の技以上のものが生まれる。自然に対する尊敬が唐津焼にはあり、使う人によってオンリーワンの器になる。茶道の精神を軸にしながら、女流作家のバイオニアとして、文子さんは唐津焼の文化継承を続ける。